

『野鳥と緑の信託』に ご支援くださっている皆さまへ

平素は『野鳥と緑の信託』を通じて
日本野鳥の会の自然保護活動をご支援
いただき、誠にありがとうございます。

2012年4月～2013年3月の1年間に、
皆さまからいただきました信託の決算
収益金のご寄附は、総額116,859円と
なりました。温かいご支援に、心より御礼
申し上げます。

いただきましたご寄附は、野鳥たちが
安心してらせる豊かな自然を守り、
未来につないでいくための活動に大いに
活用させていただきます。

※信託収益金のご寄附と併せて、三菱UFJ信託銀行様
より100万円の無償ご寄附をいただきました。

国の天然記念物 マガン

北海道からは早くもマガンやヒシクイなど、冬の使者飛来の便りが届く頃となりました。
季節は確実に移り変わっていることを、訪れる鳥たちは教えてくれます。

ところが近年、身近な渡り鳥として日本人に親しまれてきたツバメが、減少傾向にあると
いわれています。

当会が昨年実施したツバメの全国調査では、実際に約4割の方が「数が減っている」と
感じていることが分かりました。さらに、古来続いてきた人とツバメの温かい関係までもが
失われつつあることが浮き彫りになりました。

ツバメは人と自然の共存の度合いを示すバロメーターです。日本野鳥の会は、タンチョウや
シマフクロウをはじめとする、希少な鳥類の保護を進めるとともに、ツバメやスズメなどの
身近な鳥類についても、市民参加で調査を行なうなど、都市環境の生物多様性の保全に
結びつけていく活動を行なっていきます。

引き続き『野鳥と緑の信託』をご継続いただき、当会の活動をご支援くださいますよう、
何卒よろしくお願い申し上げます。

2013年9月

公益財団法人日本野鳥の会 会長 柳生 博



昔ながらの民家で子育てするツバメ

2012年度活動のご報告

■ ツバメの生息状況を把握する全国調査

参加者の4割が「減少」と回答。
人による巣の撤去も要因の上位に

減少傾向にあると言われているツバメの現状を明らかにし、その背景にどのような要因があるのかを把握するため、全国にツバメの目撃情報の協力を呼びかけたところ、すべての都道府県から約8千件の情報が寄せられました(一般目撃調査:6,867件、詳細調査:1,535件)。そのうち一般目撃調査の結果では、ツバメは現在も全国的に分布しているものの、約4割の方が「ツバメが減少した」と回答しました。またその要因として、カラスやヘビといった天敵の影響のほか、「フンで汚れる」などの理由で、人が巣を撤去してしまう悲しい事例が数多く寄せられました。今後はこの結果をもとに、ツバメの子育てを見守ってもらうための啓発活動を入れていきます。



フン除けとカラス除けが設置され、見守られているツバメの巣(写真/佐藤信敏)

■ 放射性物質の野鳥への影響調査

野鳥の一部では汚染が明らかに

福島第一原発事故で漏出した放射性物質の野鳥への影響を調べるため、東北・関東地方で、サギ類のコロニーの土壌や、親鳥がヒナに与えたエサ、小鳥類の死がいや巣材などを採取し、放射線量を測定しました。その結果、ヒナに与えたドジョウやカエルなどのエサ4サンプルから、平均102ベクレル/kg、高いものでは157ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されました。また、福島県内の山林で発見されたシジュウカラ2羽の死がいからは、それぞれ約730ベクレル/kg、約200ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されたほか、シジュウカラの利用した巣材(コケなど)からも、

■ タンチョウやシマフクロウの保護および生息地保全活動

タンチョウ

越冬期のタンチョウを保護するため、2012年11月～翌3月末までの間に、飼料用のトウモロコシ(デントコーン)8.2tを給餌しました。また、このように冬期を人工給餌に頼って暮らすタンチョウたちが自力でエサを採れるよう、ボランティアなどの協力を得て、新規に5か所の冬期自然採食地を造成(*)しました。併せて、利用状況を確認するためのモニタリングカメラの設置も実施しました。

※タンチョウが利用できるよう、冬でも凍結しない水路(河川)に覆い隠される枝などを払い、時間を確認します。



造成した自然採食地を利用するタンチョウ

シマフクロウ

シマフクロウの野鳥保護区では、不足するエサを補うために人工いけすを設置しています。昨年度は、シマフクロウが利用しやすいよう、いけすの設置方法や形状を改良し、ヤマメ280kgを給餌しました。また、新たに2千250本の広葉樹を植樹するなど、生息環境の保全を進めました。



シマフクロウのエサを補うために設置した人工いけす

高いものでは130万ベクレル/kgの放射性セシウムが検出され、すでに一部の野鳥は放射性物質に汚染されていることが分かりました。今後もこれらの調査を継続していきます。



放射性物質が検出されたシジュウカラと巣材